

第1回	糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議 会議録		
日 時	平成30年7月27日 13:15-15:30	場 所	糸魚川市民会館3階会議室
出席者	<p>委員：白沢賢二委員、青木資甫子委員、小林大祐委員、本間寛道委員、小坂功委員、室川亜紀委員、齊藤里沙委員、野村祐太委員、松木美沙子委員、丸山剛委員、猪又直登委員、竹田しをり委員</p> <p>アドバイザー：伊藤薫氏、江口知章氏、西村浩氏</p> <p>ファシリテーター：吉崎利生氏</p> <p>(欠席) 齋藤伸一委員、木島嵩善委員、小出薫委員、土田満委員、小竹貴志委員</p> <p>事務局：(市) 木村副市長、見辺産業部長、井川教育次長、渡辺企画定住課長、大嶋商工観光課長、復興推進課(齊藤課長、太田復興管理監、渡辺課長補佐、渡辺復興係長、福光にぎわい創出係長、能登主査)、</p> <p>(商工会議所) 田辺副会頭、後藤にぎわい創出特別委員長、北村事務局長、山邊係長、猪又係員</p>		
(協議内容)			
<p>1 開会 (13:15)</p> <p>復興推進課齊藤課長により進行</p> <p>2 挨拶</p> <p>(市長)</p> <p>大火から2年半経過し、被災者の生活、事業者の活動が再建され始めた。行政としては、安心安全なまちづくりの方向で進めてきており、道路整備や防火水槽の設置など基盤整備が整ってきた。</p> <p>そのなかで、駅北エリアでのにぎわいを創出していきたい。そのため、にぎわい創出広場や防災とにぎわいの拠点施設を核としたい。</p> <p>しかし、拠点施設整備だけでは本来のにぎわいには結びつかないと考えている。どのような形で進めればよいのか課題もある中、ワークショップなどを通じて多くの方の意見を聞いてきたが、今一度にぎわいの部分について、多様な方から考えを聞き、議論して計画を詰めていきたい。市民会議はその意図で設置させていただいたものである。</p> <p>糸魚川市商工会議所とも連携しながら、新たなまちの活動を推進していきたい。</p> <p>(商工会議所会頭)</p> <p>駅北エリアでは事業所の再建、住宅の復興に向け取組を進めているところであり、事業所の約8割が営業を再開し、住宅も建設され始めている。</p> <p>今回、市長から共同事務局として、市民会議への協力依頼があった。商工会議所としても、商工業の振興、特に中心市街地活性化は最重要課題と認識している。</p> <p>行政、産業界だけでなく、市民との協働が必要である。市民会議においてはそれぞれの立場で、それぞれの経験から忌憚のないご意見を頂戴したい。</p> <p>——— 市長・会頭退席 ———</p>			

3 糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議について

・会議の設置について（資料 NO.1）

（事務局）

資料 NO.1-1 に基づき説明する。この市民会議は、復興計画におけるにぎわいのあるまちづくりに関して、駅北エリアのにぎわいと活力を創出するため、委員の意見を聞き、まちのイメージを具体化することが目的である。

（事務局）

委員の紹介（資料 NO.1-2）

（事務局）

市民会議の設置についてご意見やご質問等はあるか。

（委員）

特になし

（事務局）

委員長の選任に入る。皆様から何か選出方法についてご意見はあるか。

（委員）

事務局に一任する。

（事務局）

事務局案を提示して、ご了承いただきたいが、よろしいか。

（委員）

異議なし

（事務局）

事務局案としては、長年地域の自治会長をお勤めで、被災 4 区の区長の代表をお勤めの白沢委員に委員長をお願いしたいと考えているが、いかがか。

（委員）

異議なし

（事務局）

異議なしとのことで、白沢委員を委員長として選出する。委員長よりご挨拶をいただきたい。

（委員長）

市民会議では委員それぞれの立場から建設的なご意見をいただきつつ、アドバイザーのお力もいただきながら、市長及び会頭への答申を行って参りたい。

・会議の開催予定（資料 NO.2）

（事務局）

市民会議の開催予定について、事務局より説明する。

資料 No2 をご覧いただきたい。市民会議は年度内に 6 回程度の開催を予定している。市民会議の内容はまちづくりに関わるので、リノベーションシンポジウムやスクールとリンクする形で市民会議を開催する予定である。会議の進行状況によっては変更もあるのでご了承いただきたい。

(事務局)

市民会議の開催予定について、ご意見やご質問はあるか。

(委員)

特になし

4 議事

(1) これまでの経過について

①糸魚川市駅北復興まちづくり計画における位置づけ (資料 NO.3)

(委員長)

これまでの経過について、事務局よりご説明いただきたい。

(事務局)

糸魚川市復興まちづくり計画のうち、特ににぎわいのあるまちづくりに関するこれまでの経過や検討状況についてご説明する。今後の市民会議における共通認識として、次回以降の検討につなげて頂きたい。

資料 NO.3-1 の糸魚川市復興まちづくり計画は昨年 8 月に策定したもので、計画の進捗評価を行っており、今年の 5 月の段階の状況を取りまとめている。

対象地域としては、計画対象地域として 17ha の広さとなっている。

期間としては、平成 33 年度までの 5 か年を設定している。特に今年度からの 3 年間について被災地域を中心としたハード整備や、にぎわいを創出するためのソフト事業を実施する復興整備期として位置付けている。

まちづくりのイメージや方針を P5 以降に記載している。P11 では A3 の地図に P6 以降のイメージをまとめている。市民会議では、このイメージをもとに内容を具体化、ブラッシュアップしていただいて、イメージ図中にある回遊や買物などの動きをどのように作り出していくのかの議論を深めてもらいたい。

P13 以降では、方針を達成するために必要な重点プロジェクトとして 6 項目の施策を挙げている。

資料 NO.3-2 では進捗についてまとめている。参考までにご覧いただきたい。

②現在までの検討状況 (資料 NO.4)

(事務局)

資料 NO.4 は、資料 No.3-1 の P11 に加えて、現在の計画の検討状況を青文字で記載している。

それぞれの取り組みについて、資料 NO.4 に 4-1 から 4-6 として、別紙資料としてお配りしている。NO.4 は 4-1 から 4-6 までの目次としてご覧いただきたい。

NO.4-1 にぎわいづくりのコンセプトとして、「若者・子育て世代が集いなくなるヒトづくり マチづくりのたまり場」としている。糸魚川駅周辺は他地区と比べて若年層の人口減少率が大きいのが特徴である。空き家、空き店舗を活用しながら、駅北エリアのにぎわいを創出したい。

NO.4-2 大小合せて 9 か所の公共空気を、広場として 4 つにゾーニングし整備する予定。

NO.4-3 市営住宅として 18 戸、平成 31 年度 3 月完成を予定している。最初は被災者が入居することを想定しているが、長期的には若者や子育て世代を優先的に入居できるよう検討する。また、コミュニティ活性化のため、交流スペースを設ける予定である。

NO.4-4 本町通りは、電柱の地中化や石畳風の舗装を計画し、回遊性の向上を図る。

NO.4-5 にぎわいのあるまちづくりについては、広場や防災とにぎわいの拠点施設、まちに点在する空き家や空き店舗などの遊休不動産を活用することに加えて、まちで活躍いただく「人材」が重要だと考えている。意識啓発や人材の発掘を目指したシンポジウムを開催するとともに、実際に空き店舗を開店させてビジネスを創り出すための「リノベーションスクール」を開催し実践の場をつくっていく予定。

NO.4-6 防災とにぎわい拠点施設について、①、②の物件は市が取得することで協議済みである。

③~⑥は、施設の機能や規模に応じて市が取得するかどうか検討させていただいている。まち全体のにぎわいイメージを共有・明確化できていないことや、サウンディングで民間事業者から慎重な意見が多いこと、他の計画との整理が必要であることを考慮すると、方向性を示すには更なる検討が必要であり、今回の市民会議を立ち上げさせていただいた。

本日、参考資料として、人口動態など、各種の調査資料も配付している。今後の市民会議等で必要なデータ等があれば、お申し付け頂ければ、順次用意する。

(委員長)

検討状況についてご説明いただいたが、皆様からご意見ご質問等を伺いたい。

(委員)

資料の NO.4 について、各取り組みが①から⑫までであるが、⑨が見当たらないが、どちらに該当するのか。

(事務局)

番号の振り間違えなので、⑩以降、数字を繰り上げていただきたい。

(委員長)

他には特に無いようなので、次の議題に進みたい。

(2) 次回の市民会議について (資料 NO.5)

(委員長)

それでは、次回の市民会議について事務局の方からご説明頂きたい。

(ファシリテーター)

資料 NO.5 に基づき、ご説明する。

計画づくりは先が見えないため、不安が大きいと考えている。2回目以降は楽しく、気軽な雰囲気の中で、ワークショップ形式で、委員同士の交流を深めながら意見を出しやすい雰囲気をつくりながら市民会議を進めていきたい。

全体のプロセスとしては、3種類の問いを設けて、進めようと考えている。

①目標設定 (にぎわいのある街とはどんな街なのだろうか?)、②課題抽出と解決策検討 (①を達成するために、何をどうすれば、にぎわいのある街に近づけようか? 備えておくべき機能、必要な機能とは何か?)、③役割分担 (持続可能なにぎわいを実現するため、自立、協働、支援といった役割分担をどのようにすればよいか?) の検討をしていきたい。進捗に応じて、参加者や有識者の意見を聞きながら、臨機応変に進めていきたい。

次回は 8月31日(金)13時30分~を予定している。

(委員長)

次回の市民会議について、ご意見、ご質問はあるか。

(委員)

資料 NO.5 次回のプログラムに、2026 年最高の状態について議論するとあるが、2026 年最高の状態とは具体的にどんなイメージか教えてほしい。

(ファシリテーター)

大火から 10 年として 2026 年を想定している。10 年後に期待するにぎわいのイメージを具現化していきたいということ。

(委員長)

他には特に無いようなので、次の議題に進みたい。

(3) その他

(委員長)

その他、事務局、各委員から何かありますか。

(委員)

特になし

(委員長)

これにて議事の方は終了させていただく。

5 アドバイザーからの情報提供

(事務局)

各アドバイザーよりご自身の活動紹介や、情報提供等をお願いしたい。

(伊藤アドバイザー)

糸魚川で生まれ育った。地元に住み続けたいと考えていたが、大学進学や卒業後の選択肢がないことから、東京に移住した。

新卒でリクルートに入社し、社内ベンチャーのホットペッパーに配属となり、広告販売促進を行ってきた。

その後、フィリピンのマニラ、中国の上海で日本企業の広告販売支援をしてきた。

海外で働いて感じたのは、どこまでいっても同じ人間だということ。

デザイン会社での仕事で、石垣島では、お土産品のプロジェクトに携わった。ものを通じて島のファンとなり、関係が生まれてくる。

次に経済産業省のプロジェクトで、伝統的な日本製品の海外進出プロジェクトに携わった。

広告の仕事ですればするほど、価値が生まれるのは地域自体であり、地域にある工房であり酒蔵であると感じた。

その後、独立し旅行業関係の資格を取得し、今は東京江東区の深川を案内している。外国人（地域外の方）が来ると地域の人が、自分たちの地域の良さに気づく。

そのまちごとに魅力がある。糸魚川のために協力していきたい。

(江口アドバイザー)

第四銀行に入行し、銀行系のシンクタンクに出向している。

観光支援を長年やってきた。最近、ビジネス向けのプロモーションの講師も務めている。

10年後、30年後のまちづくりというと、人口減少は避けられない。糸魚川市の状況を確認すると、生産年齢人口の減り幅が大きい。2040年になると生産年齢人口と老年人口が同等となり、経済活動が収縮する。

2040年になると、女性では90歳以上の層が一番多くなる。

長岡市からは、糸魚川市への流入者が多い。また、上越市へは、糸魚川市からの流出者が多い。市内はもちろん、市外旅行者の取り込み、市外への販売強化が必要である。

市外、旅行者の取り込み方法について、代表的な意見としては道の駅の設置や、周遊性の確保、商業施設の設置がある。一方、歩いていける距離にある小型店舗の振興を要望する声もある。

人口減少を見据え、担い手のことも考えながら、10年後のにぎわいの創出ができるようにサポートしたい。

SNSを活用すればチャンスが広がる。村上市のケーキ屋さんでは、情報発信をすることで市外の方や観光客までも取り込めている。行政の財政支援なしで、商品配送の際に市の観光マップを入れて、周辺のお店も紹介している。

お客との関係性が強くなり、千葉県でお菓子教室の講師もしている。

1店舗でもまちのにぎわいに貢献できる。

元気な事業主を発掘し、支援できるかも重視して行きたい。

(西村アドバイザー)

佐賀出身、10年間佐賀のまちづくりに携わっているが、なぜできるかというところ、そこがふるさだからである。

まちづくりは自治体によって違うはずなのに、どこも同じことをしているような気がする。建築の仕事がメインだが、土木の空間や構造物のデザインも行っている。

岩見沢駅舎(25億円)に携わった。レンガの壁に、参加費1500円で自分の名前のイニシャルと出身地の刻印できるプロジェクトを実践した。岩見沢という名を世界中に発信でき、公共建築物でお金を稼ぐことができた。お金を稼ぐことで、プロジェクトが自走可能な状態となり、持続性が担保される。市外の人々が岩見沢を訪れるきっかけにもなる。今でも市民自ら、若い方を巻き込みながら継続して活動している。

できるだけ多くの人がかかわり、持続的な活動になればよい。

喜多方市では、地元高校生が授業で蔵のある空き地を再生するプロジェクトを行った。芝生を張り、レンガを張ってデッキをつくる作業を3年間かけ実施し、国交省の都市景観大賞(教育部門)を受賞した。卒業した高校生がイベントごとに戻ってくる。高校生たちが学校に通う3年間に地域とのつながりを築き上げることが大切である。まちづくりにおける教育の重要性を感じた。

会津美里町のプロジェクト。人口2万人(3自治体が合併)、隣町には会津若松市、喜多方市など観光拠点が近くにある。そこでは、自分たちで完結せず、周りから引っ張ってくる、連携するという発想が重要である。その際には、まわりにはない独自コンテンツを磨き上げれば、来街者は増える可能性が高い。会津美里町で言えば、窯元、ワイナリーなどである。

糸魚川も周りにはないものを見つけることが重要であり、当たり前と思っている様々な枠を超えることが重要である。

伊達市のプロジェクト。商店街の活性化を依頼されたが、商店街の問題ではなく、そもそも人が住まなくなってしまったことが課題である。まちの課題に対する意識が他人事になってしまってお

り、自ら課題を解決する当事者をつくることが重要である。サービスの受け手から担い手になってもらう必要がある。

ママたちが働ける場所、暮らせる場所を自分たちでつくる。補助金に頼らず、持続的に運営できるよう、魅力的でお金を稼ぐことができる事業計画を組み立てることが重要である。

糸魚川市では、広場のデザインに関わっている。ハードだけでなく、ソフト面から人が集まってコトが起き、お金を生むようなプロジェクトにしたい。例えば、自分たちでDIYで街に必要なもの（例えばベンチなど）を作れるような仕組みを用意して、街への愛着を育てて行くような仕組みを考えたい。暮らしをシェアする関係をつくり、地域の課題を自ら解決していこうという動きと仲間を作っていきたい。そうすると、他のまちにはない糸魚川ならではの価値が生まれると思う。

(事務局)

今のアドバイザーの皆様からのお話に対して、ご意見等はあるか。

(委員)

特になし

6 閉会

(事務局)

今日のお話を持ち帰って、次回につなげて頂きたいと思う。これにて、第1回糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議を終了させていただく。

以上